

Vol. 84

CONTENTS

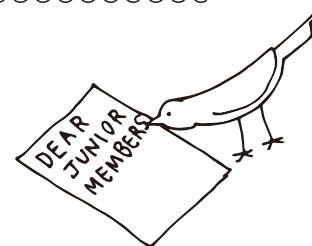
【コラム】ジュニア会員に向けて… 奥村 晴彦

【解説】情報リテラシー授業における反転授業の実践… 長瀧 寛之

【解説】小中高等学校の新学習指導要領とそれを取り巻く情報教育の状況… 和田 勉

COLUMN

ジュニア会員に向けて



本会は 2015 年度から「ジュニア会員」を設けています^{☆1}。

会費は無料。資格は小学生から大学 3 年生までであることです。

さすがに無料なので、会誌は冊子で送られてきませんが、電子図書館で無料で読めます（過去記事も）。電子図書館は正会員と同様に利用できます。イベントも無料またはジュニア会員価格で参加できます。

もちろん、正会員と同様に、研究会で発表したり論文を投稿したりできます。

実際、高校生のジュニア会員、間辺美樹さんを第一著者とする論文「意味の理解に着目させる漢字学習ソフト『熟語マニア』の開発と評価」が、本会の論文誌の 1 つ、『教育とコンピュータ』に投稿され、査読を経て、この 2 月に出版されました^{☆2}。間辺さんは本会の情報教育シンポジウム SSS2016 でも発表され、最優秀発表賞を受賞されています。

情報分野以外でも、小・中・高校生が書いた論文（査読あり）はけっこうあるようです。2010 年には、イギリスの小学生のグループ（25 人、8～10 歳）が Blackawton bees というハチに関する論文を出版しています¹⁾。日本でも、2011 年に茨城県立水戸第二高等学校数理科学同好会の女子高校生たちの論文²⁾、2012 年に宮城県仙台第二高等学校化学部の論文³⁾ などがあります。2015 年に日本・フランス・ポーランド・ベラルーシの高校生ほか 233 人が Journal of Radiological Protection に載せた論文には、233 人の著者名がすべてアルファベット順に並んでいます⁴⁾。

中学生棋士が竜王に勝つ時代です。ジュニア会員が新規性・有用性のある研究をすることは十分可能です。

ただ、研究を論文にまとめるにあたっては、それなりのルールがあります。酒井聡樹『これから研究を始める高校生と指導教員のために一研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方⁵⁾』という本や、本会会誌の記事「高校生も学会で発表しよう！」^{☆3}（間辺広樹）が参考になります。ジュニア会員向け「先生、質問です！」質問投稿フォームでもできましたので、分からないことは気楽におたずねください^{☆4}。

来年（2019 年）3 月の全国大会（福岡大学）では「中高生ポスターセッション」も開催する予定ですので、まずはこちらで発表してみたいか^{☆5}。

参考文献

- 1) Blackawton bees, Biology Letters, DOI:10.1098/rsbl.2010.1056 (2010).
- 2) Rebirth of a Dead Belousov-Zhabotinsky Oscillator, Journal of Physical Chemistry, DOI: 10.1021/jp200103s (2011).
- 3) Ag₂O₃ Clathrate is a Novel and Effective Antimicrobial Agent, Journal of Materials Science, DOI:10.1007/s10853-011-6125-0 (2012).
- 4) Measurement and Comparison of Individual External doses of High-school Students Living in Japan, France, Poland and Belarus—the 'D-shuttle' project—, Journal of Radiological Protection, DOI:10.1088/0952-4746/36/1/49 (2015).
- 5) 酒井聡樹：これから研究を始める高校生と指導教員のために一研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方、共立出版 (2013).

奥村晴彦 (三重大)

☆1 <https://www.ipsj.or.jp/member/junior.html>

☆2 <http://id.nii.ac.jp/1001/00185815/>

☆3 <http://id.nii.ac.jp/1001/00145446/>

☆4 <https://www.ipsj.or.jp/magazine/sensei-q.html>

☆5 <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/81/program.html>

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno